

『この子らを世の光に』

「福祉の思想」を

糸賀一雄師の生き方から学ぶ―【講演要旨】（文中敬称略）

教授 市川 一 宏

日本キリスト教社会福祉学会会長
ルーテル学院大学学長兼副学長

秋の特別集会



「障がい者福祉の父」と称される糸賀一雄の書物・

思想との出会いがなかったら、今の私は存在しない。一人の人との出会いがその人の人生を変えていくことを強く感じる。「福祉の思想」の原点となった鳥取教会の、その場に、今立たせていただいていることを大変光栄に思う。

1. 私の糸賀一雄との出会い

「あなたがたは世の光である。…：そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである」(マタイによる福音書5：14・15)

約40年前、教会主催のボランティア活動に参加したことが、私の人生の方向を大きく変えた。知的障害のある人たちが施設に閉じ込められていた社会の厳しい現実に気づいた時、私は「知的障がい者の父」と言われる糸賀一雄の言葉と実践に出会った。「この子らを世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」という逆転の発想のメッセージに、魂を揺さぶられるような衝撃を受けた。障害を持つ人がその人らしく生きていくことができる社会、その人たちが持っている光こそが、私たちの目指すべき社会であるという主張に、

私は強く心をひかれ共感を覚えた。

2. 若き日の糸賀一雄

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」(伝道の書12：1)

鳥取市で生まれ、多くの人との出会い、学校での学び、鳥取の文化の中で育てられた糸賀一雄。小さき者への愛・隣人への奉仕の心が培われて信仰を深め、鳥取教会で洗礼を受けた。糸賀一雄が洗礼を受けた原点は、光が届いていない人たちに、光を灯すことであつた。

戦後の混乱と貧困のどん底の中で、子どもたちの居場所「近江学園」を創設した。この大きなチャレンジは、若き日に養われたものであることを思わされる。混乱の中にある時にこそ、信仰を学び、神の愛を受け継ぎ、一人だけで生きているのではないことを伝えていく役割を教会は担っている。それを訴え続けてきた信仰の源があつたからこそ、「若き日に…」の聖句に立って、チャレンジする歩みを続けることができたのである。

3. 糸賀一雄の働きを通してみる

①「SCC」

① Challenge チャレンジ

「一人のいと小さき者になしたるは、我になしたるなり」(マタイによる福音書25：31)

知的障がい者の施設を造ろうとする時、

必ず反対運動が起こり、その資金も限定される。そのため、糸賀は食べるものも制限し、自分の子どももランドセル購入に対しても妻に異議を唱え反対した。その徹底した姿勢は、障害の捉え方に基づいている。「機能障害・能力低下・社会的不利」はWHOの障害に対する定義である。社会的に不利な状況を生み出し、もたらし追いやっているのは、上から見下ろし、排除し蔑んでいる私たちの目線なのである。「知的障害」という現象が社会で問題となるのは、何によってなのであるか。…この子らを本当に理解してくれ社会、差別的な考え方や見方のない社会、人間と人間が理解と愛情で結ばれるような社会をつくりたい」という願いによって展開された糸賀のチャレンジに強く心を打たれる。自分自身も障害を持つ方を「いと小さき者」にした当事者の一人であり、排除していた一人であつたのだという強い思いが、その底流となつた。

この子たちも、そして誰もが神様から「おめでとう」と祝福されて生を受ける。祝福されないうで与えられる命はない。それなのに「いと小さき者」にしている現実へのチャレンジであつた。「理解すること」をアンダースタンドという。アンダーの位置に立たなければ、相手のことを理解することはできない。これは糸賀の一貫した立ち位置であり実践する姿であつた。

「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、…：自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです」(フィリピの信徒への手紙3：12)

「私たちの願いは、重度な障害を持った子どもたちも立派な生産者であるということとを認め合える社会をつくらうということである。この子らが自ら輝く素材そのものであるから、『この子らを世の光に』して、磨きをかけて輝かそうというのである。この子らが生まれながらにして持っている人格発達の権利を徹底的に保障しなければならぬということなのである」―この糸賀の願いは、肢体不自由、精神的障害・老人ホームなど、さまざまな困難な状況にある人たちの施設があるドイツの都市ベートルで生活するたくさんの方々との出会いによって形が整えられ、自ら輝く素材として世の光となる政策への転換が図られた。

私がデンマークを訪れて驚いたのは、重度の障害がある人の思いを代弁して普通の生活を守るというノーモライゼーションの精神が徹底しているということであつた。糸賀の歩みもまたそこにある。ベートルで見た子どもたちの笑顔、そこで実現されている普通の生活を守り、当たり前前の人間として生きていくことができるように絶えず目標を高く掲げ、より完全なものをめざしてチャレンジしていく糸賀の姿が、デンマークの福祉の取り組みと共通していることを知ることができた。

② Change チェンジ

「だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはいない。…：新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない」(ルカによる福音書5：37・38)

周りの人すべてが手話のできる中に手